



NO. 800
 発行
 13・8月20日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 上石 昌彦
 編集責任者
 教 宣 部

早急な職場復帰を

不当解雇と闘う
 JAL労働者を支える
 9・20新潟集会



「不当解雇と闘うJAL労働者を支える9・20新潟集会」が9月20日新潟市ユニゾンプラザで開催されました。市内の労働組合・民主団体など全体で98名が結集しました。

不当解雇撤回の闘いは、現在、高裁で闘っています。年内結審、年度内に判決が出されるという大事な局面になっています。

国労本部は、日本海側ルートでの全国キャラバンを企画し9月7日から秋田地本をスタートし、9月17日から20日

まで新潟地本に入り県内各地でオルグが、展開されました。その後も高崎・長野・北陸と展開され、10月25日中央集会が開催されます。

上石委員長 主催者あいさつ

集会は、はじめに上石委員長から主催者あいさつ、JAL原告団からの訴え、支援団体からのあいさつがありま

上石委員長 主催者 あいさつ



国鉄闘争のような長い闘いにはならない。早急な職場復帰を求めていく。全国キャラバンが9月7日秋田から展開され、新潟に17日から20日まで県内各地でオルグが取り組まれた。

新潟に支援する組織が2団体、発足されている。目指すところは同様だ。全ての労働者、民主団体の結集を訴え本日の集会開催となった。

全力をあげて取り組むことと次の集会は勝利集会としたい。



JAL闘争を支える新潟の会 日本航空の不当解雇撤回をめざす新潟県支援共闘会議



「日本航空の不当解雇撤回をめざす新潟県支援共闘会議」を代表して、建交労・杉崎委員長からあいさつがありました。

何でJALが解雇されるのか。国鉄闘争と同じパターンなのか。同様の解雇をさせるのか。社会状況から労働運動が弱体化になっている。JALは昔8つの労働組合が発足していた。今は4つの組合となっている。

「JAL闘争を支える新潟の会」から代表して新潟地区労働会議・阿部事務局長から、あいさつがありました。

昭和40年に国鉄に入社し国労で闘ってきた。山形から配転させられ26年経っている。

「すべての労働者団結せよ」連帯行動は取り組んでいるが陸・海・空の労働者が闘っていくことは重要な任務だ。

連合内の労働組合へも支援していくことは、新潟地区労働会議の使命だと考える。

青陵高校の仲間からの私学助成の署名について協力をお願いしたい。



支援団体からのあいさつ



闘わない労働組合があったのか。会社は闘っている労働組合を排除し攻撃をしている状況だ。

内部留保は増加している、もうかっている。

高裁の闘い、我々は判決をひっくりかえす闘いを進め広めていこう。安全より利益重視の会社だ。



新潟のキャラバン行動は、17日から4日間展開、2人で労組を回りオクルグを取り組む中で、JALの細かい状況が知らされていなかった。キャラバンをやった良かったと思う。新潟県出身で航空自衛隊に入隊してパイロット。若手操縦士の教官として教育も行ってた。

53歳で定年後、就職活動をやった自衛隊からJALへ就職した。副操縦士を12年後、機長へ指名される予定だったが、JALが破綻し165名が不当解雇された。



パイロット原告 斉藤晃氏

地裁へ提訴した。絶対勝てると思っただけ敗訴になった。JALは二度沈まないように、労働条件の改善、解雇へふみきった。そして黒字に転化していった。

私達の解雇は不当で、解雇しなくともまったく会社に影響がなかった。ものを言う組織を排除する攻撃だった。

高裁で闘っている。証人尋問が行われる。労働組合の大会で訴え、キャラバン行動で訴えている。全国の皆さんに訴え、広範に現状を伝えてい

支える会の入会の要請、目標1万口。現在、私たちは141名の中で30〜40名が活動している。運動と財政は両輪だと考える。御協力をお願いしたい。物販は労働組合の定期大会で販売している。月に350万円から100万円の売り上げになっている。



客室乗務員原告 鈴木圭子氏

立憲主義と憲法9条をまもる 新潟県民の集い

10月27日(日)
13時30分~15時30分
燕三条地場産業振興センター
メッセピア

講演 浅井 基文さん



オルグの取り組み、集会の開催など、ありがとうございます。

3年前に整理解雇された。53歳以上の客室乗務員、55歳以上の機長、48歳以上の副操縦士が解雇された。不当解雇だと地裁へ提訴した。現在、高裁で闘っている。高裁での証人尋問による訴え、解雇は不当だ、組合つぶしが目的だと訴えている。

解雇され経済的な打撃が大きい。会社側の審問は内容がわからない。具体的になっていない。裁判状況から勝利を確信しているが、地裁の時を考えると、なかなか勝利にはならないと考える。

安倍政権は、解雇が簡単に実施できる状況にさせようとしている。高裁での闘いが厳しい状況になっている。どんな判決が出されようと大きな闘いが重要だ。



新潟集会について特集しました。次号も船尾弁護士講演を記載・編集する予定です。

10月に入りますと一段と秋が深まってきたように感じます。やっと涼しくなってきましたね。これから秋の行楽シーズンになります。紅葉・キノコ・スポーツ・などなど。

編集後記



行動で多くの人達に闘いの現状を訴え広めていくことが重要だ。年内結審、年度内判決が出されようとしている。

JALは人員不足で12000人採用されている実態から職場復帰できる。新人の採用よりもベテランの採用が自然だと考えるが一度解雇した人は採用しない雰囲気、実態だ。安全よりも経営、もうけ主義になっている。

現在、4人にひとり新人という状況だ。安全上のトラブルも発生している。安心して働ける職場を確立させるために、この闘いに勝利し職場復帰をめざして訴え続けていく。